



## ごあいさつ

平素は飯田信用金庫をご愛顧賜り、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

みなさまがたに当金庫の業績をより良くご理解いただくため、今年もディスクロージャー誌「HOTLINE(ホットライン)2020」を作成いたしました。本冊子をご高覧いただき、私どもの現在の姿をご賢察いただければ幸いです。

令和2年 7月

理事長 **小池 貞志**

### ■ 金融経済環境

令和元年度の日本経済は、海外経済の減速等を背景に外需が低迷した一方、雇用・所得環境の改善等により、内需を中心に緩やかな回復基調を継続しておりました。しかし、昨年10月の消費税率引き上げによる個人消費の落ち込みに加え、本年2月から拡大を続けている新型コロナウイルス感染症は収束までに相応の時間を要すると見込まれており、国内経済に深刻な影響を及ぼすことが危惧されております。さらに、金融機関を取り巻く環境は、日本銀行によるマイナス金利政策の継続により利息収入が年々減少するなど、依然として厳しい状況にあります。

当地域の経済情勢につきましては、2027年度のリア中央新幹線開業に向けた工事の本格化や、三遠南信自動車道の工事の進展もあり、今後の発展に対する期待感も高まっておりますが、やはり新型コロナウイルス感染症拡大の影響は大きく、見通しは極めて不透明であると言わざるを得ません。

### ■ 令和元年度の取り組み

令和元年度は、第8次中期経営計画「架け橋2028 First Stage ～改革へのチャレンジ～」の初年度として、経営計画のテーマを「改革元年～輝く未来へ向かって～」と掲げ、特に「業務改革の遂行」に重点的に取り組みました。業務改革により創出された時間・人員・資金等の経営資源をさらに付加価値の高い分野に活用することで、組織全体の生産性の向上ならびに企業体力の強化へ結び付けていくことを目指し、役職員一丸となって1年間取り組んだ結果、当初想定した以上の成果をあげることが出来ました。

令和元年度の計数目標としては、①預金平均残高60億円増加、②貸出金平均残高20億円増加、③当期純利益15億円を掲げ取り組みました。預金は堅調に推移し増加目標を大きく上回り、貸出金も重点施策として積極的に取り組んだ結果、増加目標を達成することが出来ました。また当期純利益は前期と比べ減益となりましたが、金利低下に伴い利息収入が減少するなど厳しい環境下においても目標を上回ることが出来ました。

### ■ 令和元年度の業績および決算概況

預金の期末残高は、前期末比93億65百万円、1.73%増加し5,494億95百万円となりました。法人預金が減少に転じ低迷したものの、個人預金はキャンペーン商品の販売等により前期末比101億97百万円、2.36%増加と堅調に推移しました。

貸出金は、前年に引き続き重点施策として積極的に取り組んだ結果、法人・個人向け融資ともに残高は増加しました。特に住宅ローンが堅調に推移し、期末残高は前期末比43億9百万円、1.74%増加し2,519億10百万円となりました。

有価証券運用では、金利が低位で推移したため国債等の購入を控える一方、事業債の購入により債券残高を積み上げましたが、期末における時価下落の影響が大きく、期末残高は前期末比88億56百万円減少し2,991億4百万円となりました。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により株価が大幅下落となったことに加え、長期金利が上昇したことから、有価証券の評価益は前期末比99億41百万円減少し218億86百万円となりました。

収益の面では、利回り低下の影響により貸出金利息収入および有価証券利息収入が減少したことに加え、貸倒引当金戻入益が減少したことから、業務純益は前期比1億19百万円減少の23億12百万円、経常利益は前期比6億70百万円減少の24億70百万円、当期純利益は前期比4億69百万円減少の20億19百万円となりました。

### ■ 展望と課題

令和2年度は第8次中期経営計画の2年目として、経営計画のテーマを「信用金庫らしさに磨きをかける」と掲げ、引き続き「業務改革の遂行」に注力して取り組みます。これにより創出した経営資源を、「地域活性化」「収益力強化」「お客さま本位の営業推進」へ新たに投入することといたします。

地域のみなさまには、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。